

製品名: モエシン/エズリン/ラディキシン (リン酸化 Thr558) ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab05035

研究使用のみ

概要

| | |
|--------|--|
| 説明 | ウサギポリクローナル抗体 |
| 宿主 | うさぎ |
| 応用 | WB,IHC,ICC/IF,ELISA |
| 反応性 | ヒト、マウス、ラット |
| 標識 | 非共役 |
| 修飾 | リン酸化 |
| アイソタイプ | IgG |
| クローン性 | ポリクローナル |
| 形態 | 液体 |
| 濃度 | 1mg/ml |
| 保存 | アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。 |
| 輸送 | 氷袋 |
| バッファー | 50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。 |
| 精製 | アフィニティー精製 |

応用

| | |
|------|--|
| 希釈倍率 | WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:10000 |
| 分子量 | 67kDa |

抗原情報

| | |
|--------------|---|
| 遺伝子名 | MSN |
| 別名 | MSN; Moesin; Membrane-organizing extension spike protein; RDX; Radixin; EZR; VIL2; Ezrin; Cytovillin; Villin-2; p81 |
| 遺伝子 ID | 4478/5962 |
| SwissProt ID | P26038/P35241/P15311 |
| 免疫原 | 抗血清は、Thr558 のリン酸化部位周辺のヒトモエシン/エズリン/ラディキシン由来の合成ペプチドに対して産生された。アミノ酸範囲: 524-573 |

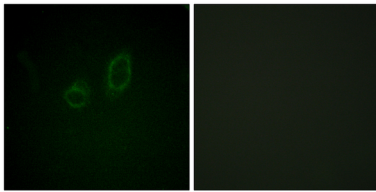
背景

モエシン（膜組織化伸展スパイクタンパク質）は、エズリンやラディキシンを含む ERM ファミリーのメンバーです。ERM タンパク質は、細胞膜とアクチンを基盤とする細胞骨格との間の架橋剤として機能していると考えられています。モエシンは、細胞間認識やシグナル伝達、そして細胞運動に重要な糸状仮足やその他の膜状突起に局在しています。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月],機能: 主要な細胞骨格構造と細胞膜の結合に関与していると考えられる。 ,PTM: Thr-558 のリン酸化は、微絨毛様構造の形成に重要である。 ,類似性: 1つの FERM ドメインを含む。 ,細胞内局在: リン酸化型は、頂端膜の微絨毛様構造に多く存在する。 ,サブユニット: 休止期 T 細胞において、TCR 活性化時に分解される PAG1-SLC9A3R1-MSN 複合体の一部である（類似性による）。 SLC9A3R1 に結合する。 ,組織特異性: 研究対象とした全ての組織および培養細胞において。 ,

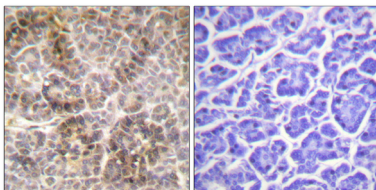
研究分野

白血球の内皮透過移動;アクチンと細胞骨格を調節します。

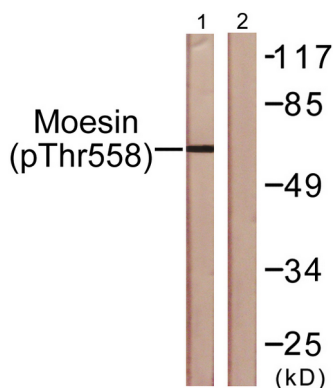
画像データ



Moesin/Ezrin/Radixin (リン酸化 Thr558) 抗体を用いた A549 細胞の免疫蛍光染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



Moesin/Ezrin/Radixin (リン酸化 Thr558) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト臍臓の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



NIH/3T3 細胞ライセートの Moesin/Ezrin/Radixin (リン酸化 Thr558) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。